

平成 14 年度全国大会経過報告

Report of the 2002 JSCE Annual Meeting

平成 14 年度全国大会実行委員会

1. 特別講演会報告

今年度は、第 1 部特別講演会、第 2 部全体討論会の 2 部構成で行われた。

特別講演会は、札幌市民会館で 9 月 26 日（木）13 時 30 分から 15 時 45 分まで開催され、その後引き続き、全体討論会が 16 時から 17 時 45 分までおこなわれた。参加者は、約 1550 名と、会場が満員に達する盛会であり、1500 部用意した配布資料も、参加者全員には行き渡らなかった。

大会実行委員長、平野道夫氏の開会の挨拶に続き、土木学会会長岸清氏に興味深い講演をいただいた。テーマは「土木界をより知ってもらうために～土木学会の情報発信改革～」であり、現在土木学会がおかれている立場をご説明し、また、現在土木学会として取り組んでいること、今後取り組まなければならないことを主に話された。約 30 分の限られた時間であったが、土木学会員への示唆と、非学会員への理解を深めるために十分かつ有意義な講演であった。

引き続き、今回は従来行われた招待者による講演の形式ではなく、会長講演を踏まえ、より時間をかけて今後の方向を議論するパネルディスカッションが行われた。具体的には、土木学会企画委員会による今後の土木界に求められるいくつかの課題について集中的に論議するため「土木技術の社会性と土木学会の変革 - 21 世紀を創る土木界に求められるもの - 」というテーマでおこなわれた。コーディネーターを土木学会副会長・企画委員会委員長である川嶋康宏氏、パネリストには、拓殖大学国際開発学部教授長坂寿久氏、高崎経済大学地域政策学部教授横島庄治においでいただき、さらに土木学会企画委員会幹事長の林良嗣氏が加わって進められた。

詳細内容は、林氏の報告に譲るが、今後の社会の変容の中で土木技術者の役割は何か、また学会が持つべき機能と改革の視点は如何なるものかについて、非常に印象深いディスカッションが行われた。議論で展開された改革の方向性は、学会員一人一人に感銘を与えたといえる。

次に行われた全体討論会は、「自然環境共生インフラ - グローバルに考えローカルからの行動を - 」というテーマで、北海道大学大学院工学研究科長佐伯浩氏がコーデ

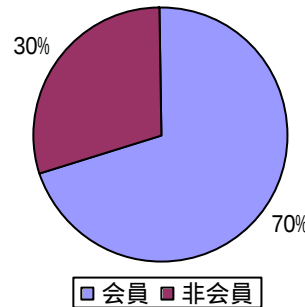


図-1 回答者の構成

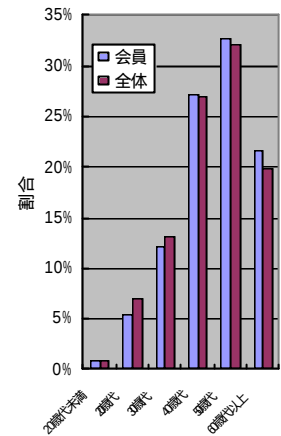


図-2 回答者年齢構成

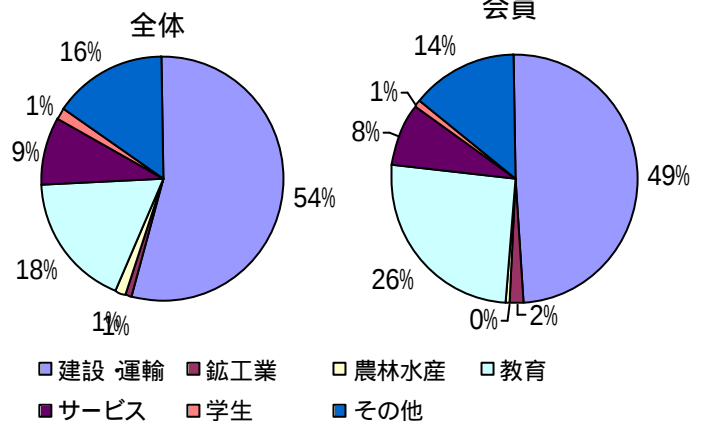


図-3 回答者の職業分野

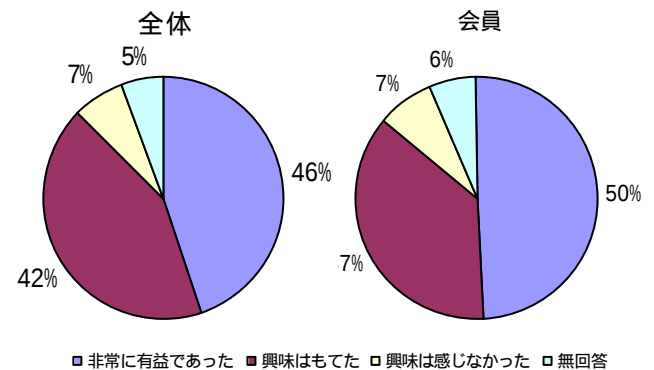


図-4 特別講演会に対する評価

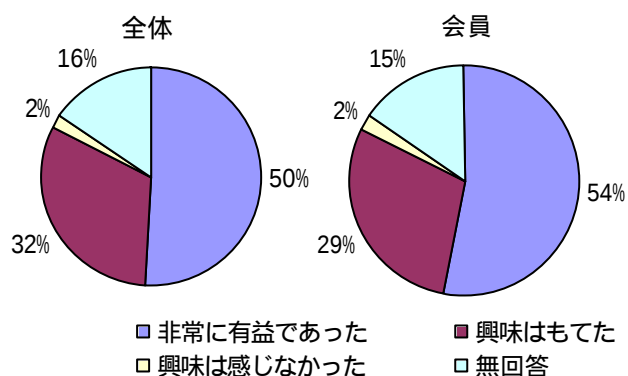


図-5 全体討論会の評価

ィネーターを勤め、北海道栗山町長川口孝太郎氏、千葉大学法経学部助教授倉坂秀史氏、高野ランドスケーププランニング(株)代表取締役高野文彰氏さらに女優星野知子氏がパネリストで行われた。ここでは、主として国土の将来像としての総合的な環境創造、すなわち心の豊かさを享受できる環境づくりの視点を積極的に打ち出すことの必要性、また土木技術が環境の豊かさの形成に貢献できる考え方について具体的に論議された。それらの内容については、田村氏の報告に託す。

特別講演会と全体討論会に参加していただいた方々からの感想をアンケートによって取りまとめたので、以下にその結果の一部を紹介する。今回回答していただいた方は、全体で 364 名となっており、参加者総数に比べ、やや少なかったがそれでも予想した以上の方から回答していただいた。参加者の関心の高さと真剣さの一端を受け止めることができる。アンケートによれば、会員非会員の構成は、図-1 のように会員 7 割、非会員 3 割であった年齢構成は、図-2 のように 50 歳代が最も多く、40 歳代、60 歳代と続く。若年層がやや少なかったが、自由回答の記入も多くみられ、これらの問題への取り組みの積極さを感じることができる。図-3 は回答者の職業分野を表しているが、建設・運輸関係、次いで教育関係が多い。図-4 および図-5 は特別講演会および全体討論会に対する反応である。全体及び会員共に 80%以上、有益であるおよび興味をもてたという結果を得た。ここでは特別講演会、全体討論会は、共に参加者にとって期待に添うものであったと考えられる。

(特別講演会・討論会部会長 加賀屋誠一)